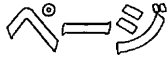


ホーム



自分の未熟さに

庶務課 井村泰明

私が図書館で働くようになり、3年目に突入しました。なんとか仕事の手順も理解できるようになり、端末機械も少しずつ扱えるようになってきました。今まで端末機械等、全く触った事のない私にとって図書に関する知識より端末の操作を覚える事の方が大変だったような気がします。先輩方が丁寧に教えてくださるのですが、あまりにも簡単すぎる質問のため、聞くのも気がひけるくらいでしたが今では KISS のマニュアルも完成し、一目ですぐにわかる、誰にでも使える端末になったと思います。

図書の知識、端末機械の知識ゼロの私にとって、本がどこにあるか探すのも大変な事でしたが、KISS の数が増えてきて、利用するたびにその便利さがわかってきました。端末一台で、その本がどこにあるのか、著者、ページ数まですぐにわかってしまうのですから。

また、タイトルを完全に覚えていなくても探せるのにはおどろきました。

私は図書館員であるとともに、サッカーのコーチもしていますが、指導者、学生両方にこの一冊だけは読んでほしい本がありました。そのタイトルが「初動負荷理論に基づくトレーニング体系の確立と展開」という長いものだったため、そのタイトルの「初動負荷」しか、覚えておらず、購入する書類に記入する事もできませんでした。しかし、学術情報センターの目録所在情報サービスで検索するとすぐに検索できました。このように、その本に関するほんの少しの手がかりで検索し、また、その本を希望図書として購入できるシステムは素晴らしいと思います。

この3年間で KISS の台数も増え、マニュアルも完成し、機械化に順応してきた図書館と学生（利用者）。私も学生のニーズに答えるためにもっと勉強し、がんばらなければと思うこの頃です。

図書館と私

図書閲覧課 熊井あづさ

私は、本学の卒業生で、現在図書館に勤めていますので、図書館とは七年目のつき合いになります。参考業務という部署にいる私はどうして学生時代に、卒業論文を書くにあたってもっと図書館を利用しなかったのか日々後悔しています。はっきり言って参考業務があるのも知らなかったし、雑誌から論文を探そうともしませんでした。本学になければすぐ公共図書館に行き、今から考えると、本学よりも調べにくい図書館で無駄な時間をかけ目的の図書に出会えたのかという、自信がありません。それで、卒業論文を書くために図書館を大いに利用しましょう。ということで、私なりに流れを紹介したいと思います。

まず、はやく卒業論文のテーマを決めること。決まれば、三階にある検索機械 KISS で自分が探しているテーマについて図書があるか検索してみる。また、六階の雑誌記事索引という冊子体から、探す。これは、雑誌の論題から探すことができ、その論題は、どの雑誌の何ページにその論文が載っているのかわかるのでとても便利です。最新のは、CD-ROM 版で画面から検索することもできます。引き出した雑誌は、本学にあるかまず KISS² で検索し、なければ三階の参考業務で相談するというのが一つの流れだと思いま

す。この流れを試みている学生はたくさんいます。しかし、まだまだ知らない学生も多いのではないのでしょうか。参考業務では、主に本学に所蔵していない図書の他大学からの貸し借り、文献をコピーして送ってもらっていますが、費用もかかるので利用する学生が少ないのかなと思います。また、他大学に閲覧しに行く方法もありますので、気分転換にはオススメです。この流れで資料をたくさん集めて下さい。でもこういう流れを一通り行うには、時間と精神的余裕が必要です。しかもここまですれば、卒業論文を書くことが楽しくなるのではと思います。

最近学生に対してすごく思うことは、わからないことがあれば聞いてほしいということです。入館ゲートを通る際に必要なカードを忘れたからといって何も言わないで、通ろうとしたり、一言聞いてくれればと目の前にすわっていて悲しくなることが多々あります。昔と違って人と話をしなくても物が買える例えばスーパーマーケットが市場より人気があるのは現代の傾向ではないかと思います。しかし、一言聞くことによって何かが導きだされるかもしれないのです。

何もしてあげられないかもしれないけれどわからないことがあれば、一言声をかけて下さい。その一言が、やり遂げようとしていることの手助けになれば幸いです。